

「バイオ炭素基金」の概要について

目的

- ・ 植林やバイオ燃料利用プロジェクトに投資し、炭素クレジットを獲得
- ・ 地域環境や生物多様性への貢献
- ・ 排出削減CDMの機会が得られにくい後発発展途上国への貢献

基金の規模

2,000万～2億ドルを目指す

出資額

1口当たりの出資額は250万ドル

(これにより約50万t-CO₂の炭素クレジットの獲得が期待される)

経緯

2002年11月5日	世界銀行が基金設立の意向を表明
2003年9月11日	世界銀行理事会の承認を得、基金が設立
2003年11月26日	出資者の募集を開始
2004年5月14日	基金の運営開始を宣言
2004年6月10・11日	設立総会を開催予定

運営

「炭素基金」と同様の運営形態

- ・ 出資者および出資者委員会(Participant Committee)の指示のもと、世界銀行が Fund Management Unit として基金を運営
- ・ 年1回総会を実施(今年は設立総会を兼ね6月10・11日にドイツ・ケルンで実施予定)
- ・ 年数回出資者委員会を実施

投資プロジェクトの種類

カテゴリ	概要
コミュニティ植林・再植林	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コミュニティの参加する植林・再植林活動。 ・ コミュニティ植林・再植林活動は2001年のマラケシュ合意に適合した活動。 ・ この活動により、コミュニティ植林と環境保全プロジェクトを通じ、コミュニティに対して恩恵が長年にわたってもたらされ続けるという、持続性の高い価値を有する。
農業植林	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上層林によって下層の農産物への保護を提供する為に行う新規植林・再植林を指す。
バイオ燃料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規植林や、林産資源の活用によるバイオ燃料を利用した化石燃料代替プロジェクト。 ・ 持続性を有するクレジットが発生する。
森林管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間伐などの持続可能な方法で森林の多様な機能を十分に発揮するための一連の作業。
森林保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林の伐採を防ぎ、森林地を保全する活動。
持続可能な農業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浅耕式農業により地中のメタン放出削減や、日陰式農法による森林伐採抑止などが該当。土壌改善管理活動を含む。
植生再生	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ植林・再植林と同様の活動だが、植林ではなく、草や灌木を使用して植生を回復させる。乾燥地域で主に実践。

吸収源プロジェクトの非持続性について

- ・ 炭素吸収源プロジェクトには、伐採・焼失などによる炭素クレジット減少のリスクが存在するため、バイオ炭素基金では出資者に分配する全炭素クレジットのうち、30～40%をバイオ燃料利用による化石燃料代替プロジェクト、もしくはJIプロジェクトによる持続性を有するクレジットにて調達することにより、伐採・焼失による減少リスクを低減している。

